外　国　語

1　外国語科における授業改善等の成果と課題

学習指導要領では、各教科等の目標及び内容が、育成を目指す資質・能力の三つの柱「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」に沿って再整理され、各教科等でどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確化された。（図１）

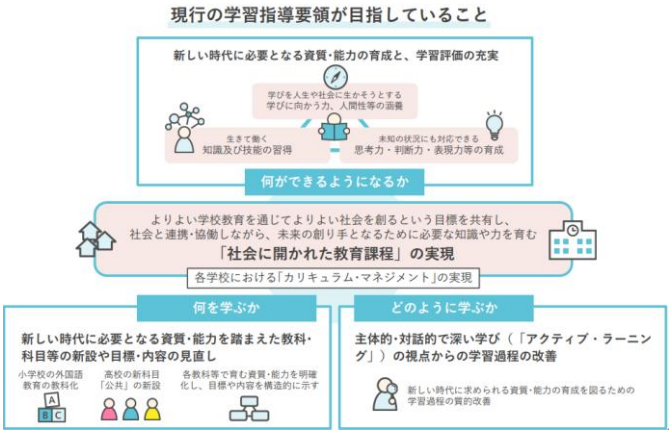


図１　初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について
（令和６年 12 月 25 日中央教育審議会諮問）

また、教師が「子どもたちにどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を図るため、「指導と評価の一体化」の充実が求められている。

さらに、未来の社会を見据え、生徒の資質・能力を育成するに当たっては、学習指導要領の趣旨を踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」という観点から学習活動の在り方を改めて捉え直し、これまで培われてきた実践とともに、ICT の新たな可能性を指導に生かすことで、「主体的・対話的で深い学び」の充実に向けた授業改善につなげていることが重要である。

外国語科においては、令和７年度英語教育実施状況調査の結果から、CEFR A2 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合は増加してきているものの、「話すこと」及び「書くこと」の発信の領域において、「即興性」を意識した言語活動が十分ではないことや、読んだことについて意見を述べ合うなどの複数の領域を結び付けた言語活動が十分に行われていないなどの課題があることがわかった。また、「論理・表現」においては、授業で英語使用の機会が十分に与えられていない実態があることがわかった。

北海道教育委員会では、令和７年度英語教育実施状況調査の結果や、教科指導訪問、各教科等教育課程研究協議会、教科研修等を通して、次のような成果と課題を把握した。

	成果	課題
全体	・現行の学習指導要領における「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」を学校単位で推進している学校が増加している。 ・各種研究協議会を通して、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組が図られてきている。 ・生徒が主体的に活動できるよう、心理的安全性を担保した授業づくりが意識されるようになってきている。 ・授業における ICT 活用の取組が充実している学校が増加している。	・自分の考えを持ち、根拠をもって明確に説明すること、自律的に学ぶ自信がある生徒の育成に難しさを感じている授業が見られる。 ・習得した知識を現実の事象と関連付けて理解し、概念としての知識の習得や深い意味理解をさせることに課題がある授業が見られる。 ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実について、校内における教員間の認識に差がある。 ・生徒を主語にした授業の在り方について、校内で一層研鑽する必要性がある。

外国語科	・教育課程編成・実施の手引や、Hokkaido パフォーマンステスト参考資料等の活用などにより、目的や場面、状況等を明確にした言語活動やパフォーマンステストを設定する学校が増えている。 ・授業等研究セミナーなど、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた外国語科の授業改善の方策等について共有し、協議する機会を通して、授業改善が図られてきている。 ・英語教育実施状況調査において、８割以上の授業で、教師が授業中の発話の半分以上を英語で行っていると回答するなど、授業において教師が英語を使用することの重要性が理解されている。	・身に付けさせたい資質・能力と単元の目標、単元の目標と本時の学習活動や言語活動との関連が十分に図られていない授業が見られる。 ・「言語活動」の解釈にばらつきが見られ、生徒が英語で情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したりすることと学習活動がつながっていない場合がある。 ・地域によっては、ALT 等の訪問日が限られていることから、授業や授業外において、生徒が ALT 等と英語を使ってやり取りを行う機会が十分に確保されていない。 ・ICT 機器の活用について、英語による「やり取り」の場面で効果的に活用されていない状況が見られる。

２　学習指導及び学習評価の改善・充実

「生徒にどういった力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにするためにも、学習評価は重要であり、教育課程や学習・指導方法の改善と一貫性のある取組を進めることが求められる。

例えば、「思考・判断・表現」の評価は、各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決するために、必要な「思考力、判断力、表現力等」を身に付けているかを評価するものである。「思考・判断・表現」の評価をするため、教師は、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善をする中で、生徒が思考・判断・表現する場面を効果的に設定するなどした上で、指導や評価を行うことが求められる。

また、「思考・判断・表現」の過程には、

・物事の中から問題を見いだし、その問題を定義し解決の方向性を決定し、解決方法を探して計画を立て、結果を予測しながら実行し、振り返って次の問題発見・解決につなげていく過程
・精査した情報を基に自分の考えを形成し表現したり、生成 AI とのやりとりを通して自分の考えを広げ深めたり、目的や状況等に応じて互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程
・思いや考えを基に構想し、意味や価値を創造していく過程

があると考えられ、各教科等の特質に応じて、「見方・考え方」を働かせ、探究的な学習活動の中で、具体的な学習内容、単元や題材の構成や学習の場面等に応じた授業改善の方法について研究を重ね、ふさわしい方法を選択しながら、工夫して実践できるようにすることが重要である。（図２）

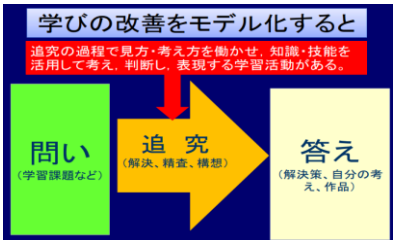


図２　新学習指導要領における思考力，判断力，表現力の評価について（平成 30 年７月９日教育課程部会 児童生徒の学習評価に関するワーキンググループ）

評価方法については、ペーパーテストのみならず、パフォーマンステストの実施や、授業中の多様な言語活動を ICT を活用して記録し、ポートフォリオとして活用したりするなどの工夫をすることが考えられる。

このことから、外国語科において、単元の指導と評価の計画を作成するに当たっては、学習到達目標（CAN-DO リスト）を踏まえて、設定した単元の目標及び評価規準に基づき、目標の達成状況を把握するためのパフォーマンステスト等の評価方法と、目標の達成のために行う学習活動を検討する必要がある。

学習活動については、目的や場面、状況等を明確にした上で、生徒同士が互いの考えを伝え合い、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく過程として、外国語による「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと（やり取り）」、「話すこと（発表）」、「書くこと」の言語活動とこれらを結び付けた統合的な言語活動を設定することが重要である。これらの言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり、適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を育成していくことが可能となる。

また、令和７年度英語教育実施状況調査を踏まえた文部科学省の分析から、生徒の英語力を向上させるため、授業内外での ALT の参画や、ICT 機器の活用によるオンライン会話（遠隔地の生徒や教師、ALT 等と英語で話す交流等）の実施などによる、英語でのやり取りの機会の充実が重要であると考えられる。（図３）

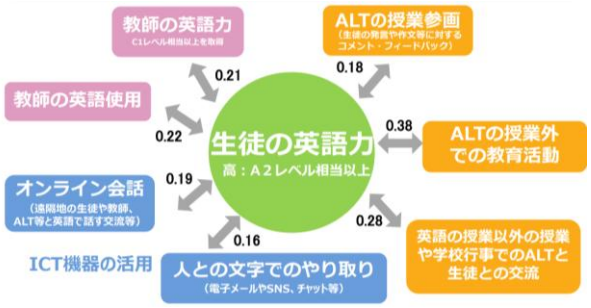


図３　生徒の英語力と諸要素の関係（高等学校）
（令和７年度英語教育実施状況調査　概要）

３　指導と評価の計画例

(1) 英語コミュニケーションⅠの計画例

ア　単元の目標

利用者や地域の実情を踏まえた理想のコンビニエンスストアについて、聞いたり読んだりした情報を基に、論理性に注意しながら、情報や考えなどを理由とともに話して伝えることができる。

イ　単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報や考えを述べるために必要な語彙や表現、音声等を理解している。 ・コンビニエンスストアについての情報や考えを、理由とともに話して伝える技能を身に付けている。	・聞き手に情報や考えをよく理解してもらえるように、利用者や地域の実情を踏まえ、聞いたり読んだりした情報を基に、理由とともに論理的に話して伝えている。	・聞き手に情報や考えをよく理解してもらえるように、利用者や地域の実情を踏まえ、聞いたり読んだりした情報を基に、理由とともに論理的に話して伝えようとしている。

ウ　単元の指導と評価の計画（10 時間）

次 【時間】	学びの過程	ねらい（■）、学習活動等（○）	重点	記録	備考 ※「おおむね満足できる」状況（B）
第１次 【４時間】 課題の設定 情報の収集	習得	【単元を貫く問い】 What is necessary for ideal convenience stores? ■コンビニエンスストアの「成功の鍵」について書かれた英文を理解するとともに、情報や考え、気持ちなどをやり取りする上で必要な表現を身に付ける。 【問い】 What factor brings about convenience store sales? ○自分が好きなコンビニエンスストアを一つ選び、その理由とともにペアで自分の意見を話して伝え合う。 ○海外のコンビニエンスストアを調べ、日本と異なる点など、調べた内容をペアで話して伝え合う。 ○コンビニエンスストアに関する語彙を確認する。 ○コンビニエンスストアについて書かれた本文を聞いたり読んだりして理解し、その内容についてペアで質問し合う。 ○情報や考え、気持ちなどをやり取りする上で必要な表現を確認する。	知 態		【単元を貫く問い】を設定することで、単元の目標及びパフォーマンステストまでの見通しをもたせる。 「記録に残す評価」は行わない（「○」を付けていない）が、言語活動中の活動観察により、「指導に生かす評価（形成的評価）」を行う。 ・教科書本文に関する語彙や表現を理解している。 ・自分が好きなコンビニエンスストアについて他者とやりとりしようとしている。
第２次 【２時間】 情報の収集 整理・分析	活用	■生成 AI を活用して自分の考えを整理するとともに、論理的に話して伝え合う。 ○教科書本文の内容をさらに理解するために、生成 AI を活用し、文章を要約し、本文の要点を整理する。	思		・生成 AI を活用しながら、自分の考えを整理し、理由とともに、自分の意見を論理的に相手に話している。

		○教科書本文に関する画像を使いながら、本文の内容を自分の言葉で伝えるとともに、相手の表現を参考にしながら、自分の表現を見直す。 ○好きなコンビニエンスストアについて、生成 AI を活用して情報を収集し、情報や考え、気持ちなどをやり取りする上で必要な表現を活用しながら、理由とともにペアで自分の意見を話して伝え合う。			
第３次 【２時間】 情報の収集 整理・分析 まとめ・表現 **【本時】** ２時間目	探究	■利用者や地域の実情を踏まえ、地域にあったらよい理想のコンビニエンスストアについて、聞き手に分かりやすく伝えるための発表内容を考え、論理的に整理する。 ○自分の地域や日本のコンビニエンスストアについて調べた上で、理想のコンビニエンスストアについて自分の考えを書いてまとめ、グループで共有する。 ○共有した情報や考えを踏まえ、グループごとに、理想のコンビニエンスストアを考えるに当たっての対象（利用者や地域等）を設定する。 ○グループとしての考えを話し合って整理し、書いてまとめる。 ○生成 AI を活用して、伝えたい内容の論理性を確認し、聞き手に分かりやすく伝わるよう改善する。 ○生成 AI を活用して、発表で示す理想のコンビニエンスストアのイメージ画像を生成する。	思 態		「利用者や地域」とすることで、生徒それぞれが対象となる利用者や地域の姿を思い浮かべながら、理想のコンビニについて考え、表現できるように工夫している。 ・理想のコンビニエンスストアについて、調べた内容をもとに、自分の考えを論理的に話して伝えている。 聞き手を明確にした上で生成 AI を活用することにより、使用語彙や表現だけでなく、理由が適切で、聞き手にとってわかりやすいものであるかを確認する。

第４次 【２時間】 まとめ・表現		■利用者や地域の実情を踏まえて考えた理想のコンビニエンスストアについて、主張とその根拠を明確にし、論理的に発表する。 ○生成 AI を活用し、発表用スライドを作成する。 ○発表原稿を用いず、画像を示しながら自分の言葉で伝えられるよう練習する。 ○理想のコンビニエンスストアについて他者に発表する。	知 思 態	○	発表後に、【単元を貫く問い】で考えた意見と比較することで、自身の意見や考えの深化や変容をまとめ、学びの振り返りを行う。

エ　学習指導案（８時間目／10 時間中）

(ｱ) 本時の目標

利用者や地域の実情を踏まえ、地域にあるとよい理想のコンビニエンスストアについて、聞き手に分かりやすく伝えるための発表内容を考え、論理的に整理する。

(ｲ) 本時の展開

過程	学習内容	生徒の学習活動	指導上の留意点
導入 （７分）	・前時の振り返り ・本時の目標と課題の確認	①復習として、教科書本文に関する画像を見ながら、概要を確認するとともに、情報や考え、気持ちなどをやり取りする上で必要な表現を確認する。 ②本時の目標と課題を確認し、「話すこと（発表）」のパフォーマンステストまでの見通しをもつ。	・前時までの学習内容について、クラス全体にフィードバックする。 ・情報や考え、気持ちなどをやり取りする上で必要な表現を示す。 目標と課題は前時から継続しているので、簡潔に確認し、生成 AI の利用について、留意点を伝える。
展開 （35 分）	・生成 AI を活用し、自分の考えを整理	③グループごとに、理想のコンビニエンスストアを考えるに当たっての対象（利用者や地域等）を設定し、理想のコンビニエンスストアについての考えを整理する。	生徒の実態に応じて、利用者や地域の対象は、教師が事前に設定し、提示することも考えられる。 【利用者（例）】 高齢者、中高生 【地域（例）】 都市部、過疎地域

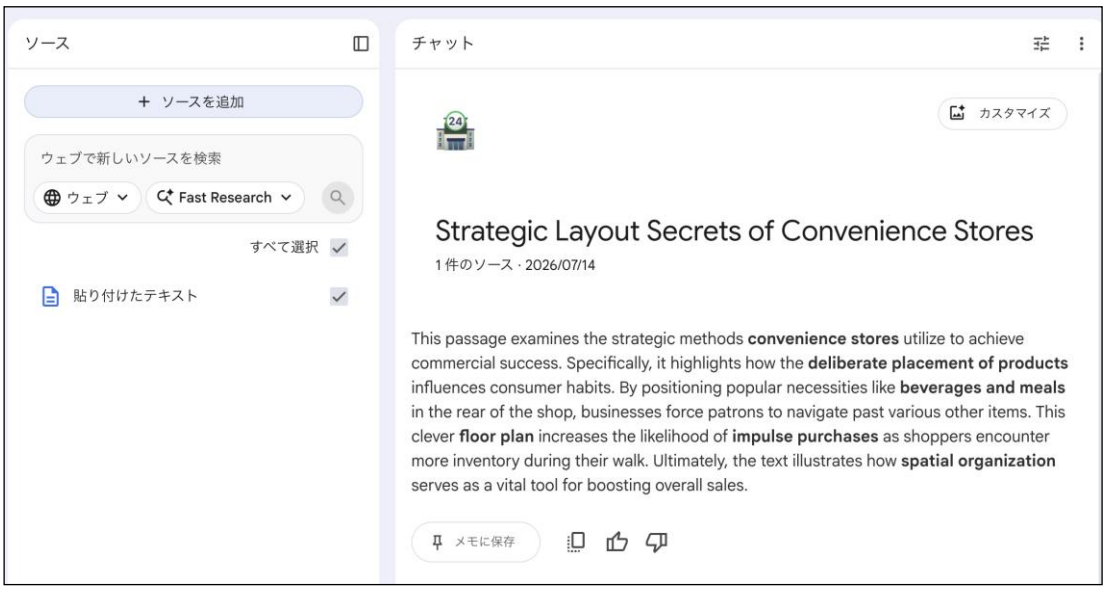
		④グループで整理した考えを基に、発表内容を構成し、論理性を意識して発表原稿を作成する。 ⑤生成 AI からのフィードバックを、自分の考え、発表原稿の論理性、わかりやすさの視点で見直し、考えを深める。 オ(ｲ)参照 ⑥生成 AI からのフィードバックを踏まえ、発表内容や原稿を修正、改善する。 ⑦生成 AI を活用して、発表で示す理想のコンビニエンスストアのイメージ画像を生成する。 オ(ｳ)参照	・生成 AI から得られた回答をそのまま受け入れるのではなく、自分の考えと照らして妥当性を判断しているかを確認する。 ・生成 AI を活用して修正や改善の方向性を見い出せていないと思われる生徒に対しては、教師が個別にやり取りしながら助言する。
まとめ （８分）	・振り返りシートの記入と本時に作成したデータの提出 ・次時の目標と課題の予告	① 生成 AI を活用したことで、考えがどのように深まったり、変容したりしたかを振り返りシートに記入し、作成したデータを提出する。 ② 次時の目標と課題を確認する。	・提出は、Google Classroom を通して行う。 ・次時の目標を Google Classroom に提示する。

オ　学習指導の進め方や学習評価の工夫

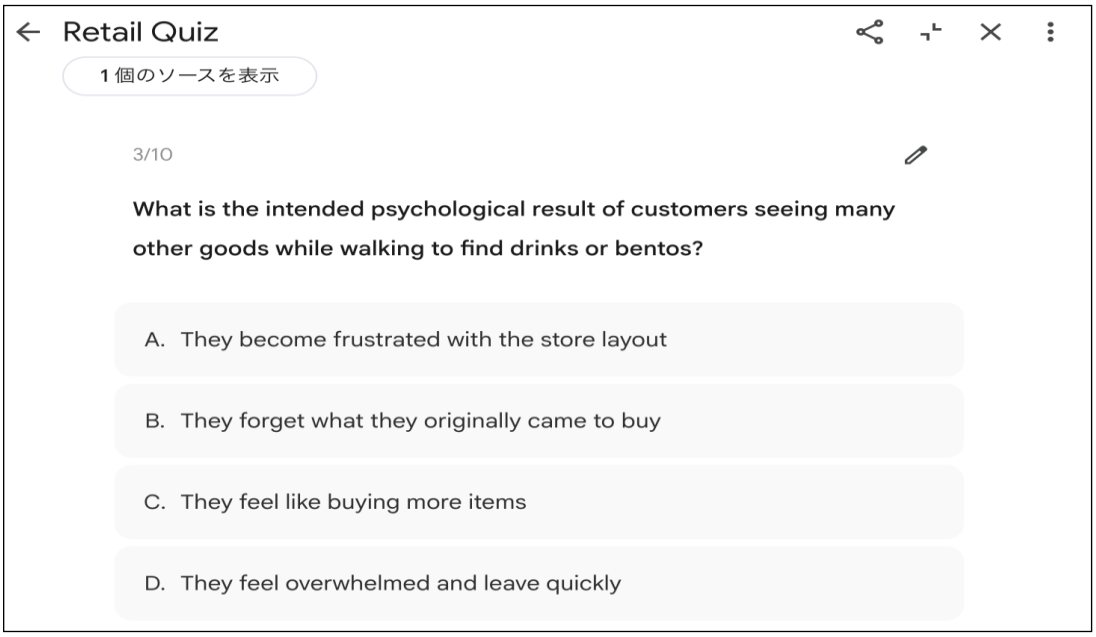
(ｱ) 生成 AI を活用した前時の振り返り

教科書本文の語彙や表現、既習内容などの定着のためのコミュニケーションを支える活動として、生成 AI を活用して、フラッシュカードを用いた単語練習や、本文内容に関するやり取りを行う。また、生徒の学習段階に応じ、個別学習やグループワークに活用することが考えられる。

①教科書本文のデータを貼り付けた画面



②内容理解に関する問題を自動作成した画面



(イ) 生成 AI を活用した発表内容の改善

理想のコンビニエンスストアについて書いた英文について、論理性の観点で生成 AI からフィードバックをもらうことで、内容面における改善点を明らかにすることができる。

（当初の内容）　※文法等の誤りを含む。

Hello, everyone. We will tell you about ideal convenience stores for parents who have small children. There are three points to the ideal convenience stores. First, there are many snacks and candies for children in the convenience store. Second, there are movable shelves, so a child can get food or drinks on a high shelf. Third, there are comics for small children in the convenience stores. These three points will help them. Thank you for listening.

（生成 AI を活用して修正した内容）　※文法等の誤りを含む。

Hello, everyone. We will tell you about ideal convenience stores for parents with young children. There are three points to the ideal convenience stores. First, there is a large restroom for young children in the convenience stores, so the parents can help their kids. Second, many different kinds of foods and drinks are on portable shelves, so even a kid can get and buy food or drinks on the high shelf. Third, there are wider aisles in the convenience stores so that the kids cannot be in other customers' way. These three points will make parents their life better. Thank you for listening.

上記の例では、理想のコンビニエンスストアの３つのポイントについて、店内の「設備」の観点で再整理している。

(ｳ) 生成 AI を活用した発表資料の作成

理想のコンビニエンスストアについて書いた英文を基に、生成 AI を活用して画像を作成する。自分が伝えたい内容が画像として適切に表現されていないと考える場合には、英文中の改善が必要な部分を検討し、修正を図る。（図４）

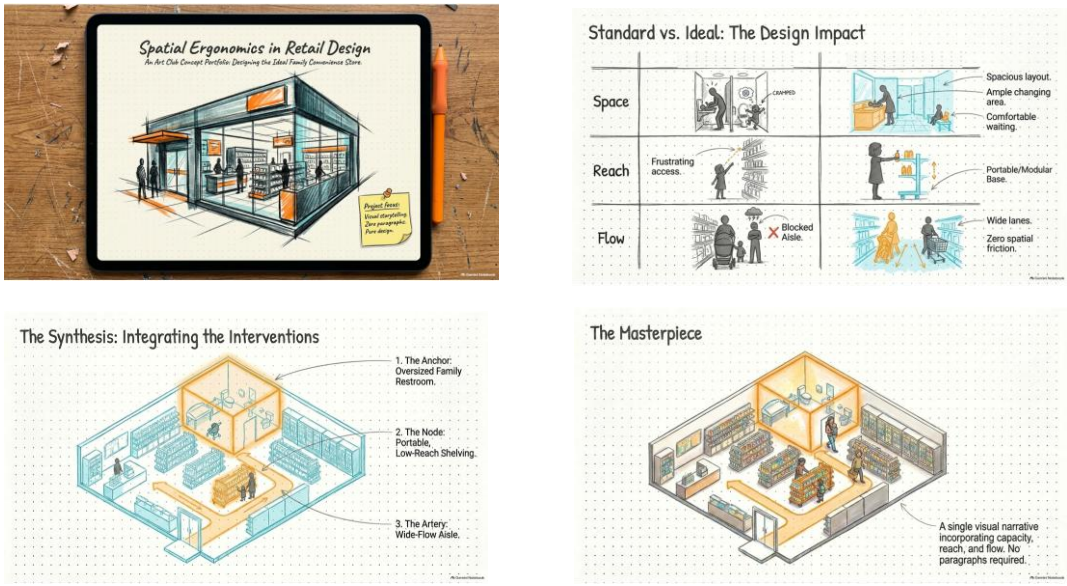


図４　書いた英文を基に生成 AI で生成した画像

これらの学習活動を通して、教師は、生徒が自分で表現した内容について、言語面と内容面の両面から主体的に振り返って改善を図ろうとしている姿を見取り、「指導に生かす評価」として、生徒一人一人の学びを支援しながら、指導の改善につなげることが重要である。

４　主体的・対話的で深い学びの実現に向けたチェックリスト

図５は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の視点として、『学習者』と『授業者』からの視点をまとめたものであり、主体的・対話的で深い学びを実現するために『授業者』が何に取り組めばよいのかを明示的に示したものである。

例えば、『授業者』は「具体物や例を提示して引きつける」ことを通して、『学習者』が「学ぶことに興味や関心をもつ」ことや、『学習者』が「見通しをもつ」ために、『授業者』は「既習事項を振り返る」ことや「生徒が自ら本時の目標をつかむようにする」などの視点が必要であると考えられる。

このように、図５における視点については、主体的・対話的で深い学びを実現するために、『学習者』と『授業者』の視点のどちらか片方が重要というのではなく、双方の視点の往還を通して実現していくことが重要である。

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	□学ぶことに興味や関心を持つ □自己のキャリア形成の方向性と関連付ける □**見通しをもつ** □粘り強く取り組む □**自己の学習活動を振り返って次につなげる**	□既習事項を振り返る □具体物や例を提示して引きつける □生徒が明らかにしたくなる学習課題を設定する □生徒が自ら本時の目標をつかむようにする □**学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる** □生徒が自分の考えを持つようにする □生徒の思考を見守る □生徒の思考に即した授業展開を考える □生徒の考えを生かしてまとめる □その日の学びを振り返る □新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	□生徒同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める □教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める □地域の人など多様な他者との対話やICT等の活用を通じ、自己の考えを広げ深める □**生成 AI とのやりとりを通して、自己の考えを広げ深める** □先哲の考え方を手掛かりに考える	□思考を交流させる □交流を通じて思考を広げる □協働して問題解決する □板書や発問で教師が生徒の学びを引き出す □**ICT や生成 AI 等を活用して、多様な意見に触れさせる**
深い学び	□**各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる** □知識を相互に関連付けてより深く理解する □**情報を精査して考えを形成する** □問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう	□資質・能力を焦点化する （身に付けさせたい力を明確にする） □**単元や各授業の目標を把握する** □**単元を通して考えさせたい内容について、「単元を貫く問い」を設定し、提示する** □**ねらいを達成した生徒の姿を具現化する** □教材の価値を把握する □単元及び各時間の計画を立てる □**目標の達成状況を評価する**

図５　主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（令和２年６月文部科学省　国立教育政策研究所）を基に一部加筆